

報道機関各位

北九州市長が「OECD（経済協力開発機構）Urban Days」で北九州市の 取組を発表し、世界に紹介されました

OECD 本部からの招請を受け、パリで開催された「OECD Urban Days」に、武内市長が出席しました。

武内市長は、「OECD Urban Days」の中の「Creating Cities for All Ages（あらゆる年齢層のための都市）」セッションに登壇し、日本の高齢化先進都市である北九州市の全世代への住宅確保政策、交通政策などにおける世界に向けたモデルとなる取組について発表しました。

1 期間及び主な日程

日 程	内 容
4月14日（月）	OECD Urban Days 参加 「Creating Cities for All Ages（あらゆる年齢層のための都市）」セッションに登壇 各国の首長等と交流及び意見交換
4月15日（火）	パリ市内の高齢者向け賃貸住宅などを視察

2 北九州市の発表内容

北九州市は、日本の政令市の中で最も高齢化が進んでいる都市です。

「誰もがいきいきと、安心して、暮らせる共生のまちづくり～人生100年時代の到来～」をテーマに、高齢者に配慮しつつ、誰もが生き生きと生活し、活気ある都市の実現に向けて、市及び官民や地域などと連携した北九州市の取組について、紹介しました。

参加した OECD 諸国の都市は、今後高齢化の割合が急速に増加する見込みであり、北九州市の取組は各国の首長などから注目を集め、高い関心の声が寄せられました。

3 武内市長のコメント

世界各国の都市のリーダーとの意見交換を通じて、改めて日本を代表する高齢化先進都市である北九州市の強みと施策の革新性を再確認し、大きな訴求ができたほか、今後の OECD や各都市との国際的な政策連携の可能性も広がりました。

今回貴重な機会をいただいた OECD を含むすべての皆さまに感謝いたします。

「Creating Cities for All Ages（あらゆる年齢層のための都市）」で登壇する武内市長



チャンピオン・メイヤーズ議長(スロバキア・ブラチスラバ市長)から賛辞を受ける武内市長



国との連携や OECD への期待についてインタビューに答える武内市長



OECD Urban Days

「Creating Cities for All Ages（あらゆる年齢層のための都市）」

OECD 諸国の都市は成長を続ける一方で、高齢者の割合も急速に増加している。高齢者に配慮した都市は、誰もが生活し、働き、繁栄できる活気あるコミュニティを形成することができる。

このセッションでは、地方自治体、都市計画者、開発業者が協力し、増加する高齢者人口のニーズを満たしながら、あらゆる年齢層の方々の機会を拡大する手段について、模索する。

【問合せ先】

都市整備局住宅計画課

(課長)藤尾、(係長)田代 電話:093-582-2592